



イエスのカリタス友の会だより

34号 2019.7.1 発行



神が私たち一人ひとりを愛して、ご自分の前で聖なる者としようと選んでくださった

エフェソ 1, 4

イエスのカリタス友の会の皆様、お元気でいらっしゃいますか。いつもイエスのカリタス友の会を心に留めてご理解を頂き、様々な形で支えてくださり、心より感謝を申し上げます。

ところで“カリタス”と聞くと皆様も、ごく最近の痛ましい事件を思い浮かべるのではないのでしょうか。実際こちらにも、何通もお見舞いの手紙を頂きました。愛情深く育てられた素直な子どもたちが犠牲になった事件について、どのような心の持ち方をすればよいのか、それは本当に難しいことだと思えます。

思い浮かぶのは、東日本大震災の後、前の教皇ベネディクト 16 世が、日本に住む 7 歳の少女の質問に答えられた次の言葉です。

「どうしてこのようなことが起きるのでしょうか。わたしには答えることができません。けれども、わたしは知っています。イエスは、罪がないにもかかわらず、わたしたちと同じように苦しみました。イエスのうちにご自身を現してくださったまことの神は、皆さんのそばにいてくださいます。このことはとても大切なことだと思えます——たとえ答えが見つからず、わたしたちが今なお悲しみのうちにあっても。神は皆さんのそばにいてくださいます。」

私たちにできることは、共にいて、支えてくださる神様の力が、事件に遭われた方々や同じような境遇の方々に届くことを祈ることだと思えます。関係者の皆様に神様が必要な力を与えてくださいますように心から願っています。

このような社会の中で、現教皇フランシスコは、私たちに聖なる者となるよう呼びかけています。“聖人?!”と思えますよね。教皇は、私たちが本当に心豊かに、喜びのうちに生きていくよう次のように言われます。「わたしたちは聖性が、日常のもろもろから離れて、祈りに多くの時間を割くことのできる人だけのものだと思ってしまいがちです。そうではありません。それぞれが置かれている場で、日常の雑務を通して、愛をもって生き、自分に固有のあかしを示すことで聖なる

者となるよう、わたしたち皆が呼ばれているのです。あなたは … 既婚者ですか。キリストが教会にされたように、あなたの夫、あなたの妻を愛し大切にすることで聖なる者となりなさい。あなたは労働者ですか。兄弟姉妹に仕える自分の仕事を誠意と能力を尽くして果たすことで、聖なる者となりなさい。あなたは子や孫をもつ身ですか。イエスに従うことを幼い子どもに根気強く教えることで、聖なる者となりなさい。

『喜びに喜べ』(14)と身近な聖性を教えてください。

また、それを成長させるための方法としての例えが印象的です。「たとえば、ある女性が買い物中に近所の人と会い話し出して、陰口になったとします。でもその人は心の中でいいいます。

『いけない。人のことを悪く言わないようにしないと』。これが聖性の一步です。今度は家で子どもが、空想の話聞いて欲しがると、とても疲れていたものの、傍らに座ってじっと優しく話を聞いてあげます。これもまた聖性のもたらすもう一つのもので、そして不安に押しつぶされそうなき、おとめマリアの愛を思ってロザリオを手に取り、信頼を込めて祈ります。これもまた聖性のもう一つの道です。そして今度は通りに出て、貧しい人に気づくと、立ち止まって優しく話をする。これもまた別の一步です『喜びに喜べ』(16)」。このように聖性を目指すことで、本当の自分になると励ましています。

イエスのカリタス修道女会の創立者カヴォリ神父も、シスターたちにしばしば、「聖人になりたいですか」と尋ねていました。“聖人”とは、その行いがすべて真正で完璧な人ということではなく、各自が置かれた場で、日常の雑務を愛をこめて行い、歩みを進めながら、そこに真実の喜びを見つける人ことです。

私たちも、自分の置かれた場で、聖性への一步一步のあゆみを進めてまいりましょう。

コーディネーター シスター峯 妙子



ボリビアより



オガール・ファチマ乳幼児院のための支援

1. 施設の生活必需品購入費支援

こちら、サンタクルスは、例年のように雨が多く、ボリビア国内のあちこちで水害が多発しているようですがお恵みでオガールは大丈夫です。(2月)

さて、今年も乳幼児の生活必需品購入費のご支援をお願い致します。昨年 2018 年も中央政府の年 1 度の食品現物援助はありませんでした。相変わらず正式措置児の手続きが遅滞して、殆ど毎月 15 名分の食費補助の支給を受けられません。当地の善意の方々が差し入れてくださるお米、砂

糖、油、ミルク等でやりくり出来る時もありますが、定期的ではないので、厳しい期間があります。また、県福祉課の施設運営費補助には被服費はなく、医療費は小額で子供たちの医薬品必要量の購入には全然足りない状況です。

何時もオガール・ファチマの子供たちの必要を受け止め、ご協力の手を差し伸べて下さるカリタスの友の会の皆様に真心からの感謝を申し上げます。

どうぞよろしく願いいたします。

申請金額合計 6200 ドル

この申請について、資金全額を支援することが可能であったため、申請は受け入れられ、ボリビアへ全額お渡しすることが出来ましたことを報告申し上げます。



2. オガール・ファチマ乳幼児施設の職員給与支援願い

イエスのカリタス友の会会員の皆様お元気でいらっしゃいますか？いつもオガール・ファチマのために、お祈りや寛大なお心で支えてくださり、心より感謝いたします。

ボリビア政府は、2018 年 12 月に「2 回のボーナスをすべての労働者に支給」との法

令を出しました。そのため、資本の小さい中小企業主、寄付や補助に頼っている福祉事業雇用主たちは反対しましたが、その抗議の甲斐なく、破産の道か、借金して支払うか、分割払いか、苦渋の選択を強いられました。オガール・ファチマは支援して下さる方々のお陰で、どうにか工面して、

全員に2回分のボーナスの支払いを済ませることができました。ホッと一安心です。ご支援くださる皆様方の寛大な心に深く感謝申し上げます。

ところで、一昨年よりサンタクルス大司教がカトリック系福祉施設を代表して、「各施設に必要な運営費を補助して欲しい」と市役所に申請していましたが、最終段階で却下されてしまいました。県庁の福祉課の補助も対応もゆっくりで、改善しません。その上、市役所から年に一度、福祉施設に支給される2018年度の補助金も保留状態で、施設の修理、医療、食糧、通信費等の一部を賄うため

に必要な補助金なので、本当に困っています。全施設が今日か明日かと藁をもつかむ思いで、わずかな希望をかけて補助金を待っている現状です。

そこで、2019年も、イエスのカリタス友の会の皆様のお力添えが必要です。昨年同様、2名分の職員給与のご支援をお願いさせていただきたいです。今年の労働者最低賃金の値上がりは、何パーセントになるかわかりませんが、近年の例によって、6パーセントの上昇で2人分の給与を計上させて頂きました。

何卒寛大なご理解と、ご配慮のほどよろしくお願い申し上げます。

申請金額合計 13350 ドル

この申請について、資金全額を支援することが可能であったため、申請は受け入れられ、ボリビアへ全額お渡しすることが出来ましたことを報告申し上げます。



イエスのカリタス友の会の皆様
お変わりなくお過ごしでしょうか。5月1日の新天皇即位に伴い、「令和」を迎え、新しい風が吹いていることでしょうか。そして、この度も寛大にご寄付をくださり、感謝申し上げます。こちらは、5月の聖母月にはファティマの聖母の記念日と洗礼式、扶助者聖母マリアの祝日、そして、母の日を迎え、天と地のお母さんの愛を感じながら、乳児、幼児たち、職員、シスターズ一同、仲睦ましく喜び祝っています。今年は、2歳から5歳まで13名の子供たちが、神様の子どもとなる洗礼の恵みを受けました。感謝!!

サンタクルスは、5月はみかんのおいしい季節でもあり、今年は豊作のようでたくさんの寄付を頂き、十分にビタミンCを取ること

が出来ました。この時期、アンデス山脈から冷たい南風が吹き（南半球なので、南風は冷たい風です）、気候の変化の激しい冬の季節なので、風邪・インフルエンザ対策が必要です。こちらは、気温が10度以下に下がることがあまりないため、暖房設備が常設されていませんが、湿度があるため、寒く感じます。そんな時は、何枚も重ね着して、雪ダルマのようになることもあります。現在、1歳未満の赤ちゃん10人を含む、約50人の子どもたちの賑やかな大家族なので、この冬の時期は、湿気のため、カラッと乾かず洗濯も一苦勞です。諸事情によって家族を離れてオガール・ファチマの家族に迎えられた子供たちの表情やしぐさの中に、淋しさや悲しさ、悔

しさが見え隠れします。本来なら、家族に甘え、十分に愛情が必要な時期に、小さい体と心で、辛い現実を必死に耐えていることを思うと心が痛みます。そして、子どもたちのかわい手や足が冷たくならないように、わがままも言って泣いて、いたずらして笑って、たくさん食べて、安心して、元気に過ごせるように、保育担当のママたちと一緒に心を込めてお世話しています。

政府は、昨年より、全国民の医療費無料制度という国の財政を破綻させる恐れのある無謀な政策を打ち出したので、医師連盟が反対運動を始めています。ポリビアの現実、つまり、第一次産業を主産業とし、経済基盤が不安定である上に、社会福祉の保障も医療保険の予算も十分に確保できないのに、政府は矛盾した政策を出すということの前に、国民は、国の未来を案じ、不安を感じています。どの企業でも、良い人材と人件費の確保が難しいようですが、運営費のほとんどを寄付金と補助金に頼っている福祉施設はなおさらのこと、厳しい状況に追い込まれ、悪戦苦闘しています。最近、大手乳製品企業「PIL」は、2年続きで、業

績がダウンし、倒産回避のため、大規模なリストラ対策の実施に踏み切ったとのニュースが報道されました。これによって、職を失って、生活の糧に困る家族、犠牲になる子どもが増えないことを願っています。オガール・ファチマでも、「県庁から、施設への生活補助金削減」という状況は、変わっておらず、良い人材と人件費確保も悩みの種ですが、イエスのカリタス友の会をはじめ、ご理解くださる方々によって、保育士を雇用でき、子どもたちに温かい手と居場所を用意できることを心から感謝しています。

シスターズ、職員、協力者と共に 日々神様に信頼し、聖母マリア様の取次ぎを願いながら、子どもたちの幸せを願い、その成長を見守っていきたいと思います。どうぞこれからもよろしく願いいたします。

最後に、イエスのカリタス友の会の皆様と支援してくださる皆様の上に、神様の豊かな祝福と聖母マリア様のご保護を祈りながら、簡単ですが、お礼とさせていただきます。

2019年5月24日扶助者聖母マリアの祝日に
施設長 シスターベネディクタ立石



ブラジルより

サン・マテウス学園奨学金援助



2018年は、創立20周年を記念した年で、これまでの創立の歩みを生徒・児童をはじめ職員・保護者と共に振り返り、一年間の行事の中で、今までの沢山の恵みに感謝し、充実した年となりました。

本学園は、年を重ねる毎に、地域に根を張り、皆様からの高評価をいただき、成長してきておりますが、運営にあたっては経営的な問題を抱えております。奨学金を希望する生徒が多く、援助したい気持ちはあっても全員

の希望を叶えることはできず、私たちにとっても苦しい決断が迫られます。そのため皆様に奨学金援助をお願いさせていただきました。勉学を続けたいと望む家庭の状況を知り、子どもたちの未来のためにも、援助を続けることができるよう願っております。

ブラジルでは毎年、入学手続きを更新しますが、経済的な問題で手続きが困難な家庭があります。理由としては、両親または父子家庭、母子家庭で低収入、リストラ、商売の不

景気、病気の家族を介護するなどです。

一般的に給料が低く、家のローン、治療費、薬などにお金がかかると教育費を支払うのが難しくなる状況があります。どうぞ、

子どもたちが本学園で勉強を継続できますように、援助をよろしく願い申し上げます。

申請金額合計 36948.35 ドル



この申請は受け入れられ、資金の一部、26910 ドルをお渡しすることが出来ましたことを報告申し上げます。



イエスのカリタス友の会の皆様へ

多くの人々を支え、また私たちをも支えてくださっている皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様の支援により、30名のカリタス学園の生徒たちがこの学校で勉強を継続することができています、本当にありがとうございます。これからも、サン・マテウス地域で最も貧しい人々が、私たちの教育プロジェクトを続けることができるように、皆様のお助けをお願いしたいと思います。

現在、学費を全額支払うことができない30人以上の子どもたちがいますが、両親の失業、病気、低収入がその原因です。そしてサン・マテウスの地域には、いくつかのスラム街があり、いまだに暴力沙汰などの問題が多い地域で、教育施設周辺も治安もよくありません。この地域の多くの青少年は麻薬、不道徳、飲酒、その他の虐待で死の危険

にさらされる場合もあります。この課題は単なる教育的というだけではなく、新しい社会的秩序の確立のために、主体的な役割を、子どもたち、および若者に植え付けることにかかっていると確信しています。食べてなくなる物を与えることより大切なことは、彼らが自分の家庭を守り、社会に貢献できる人物になれるよう教育することだと信じていますので、イエスのカリタス友の会の援助による励ましによって、私たちが一番大切にしている信念を共に担ってくださっていると思っています。

私たちは皆様のご支援にいつも感謝し、いつも皆様の力を頼りにしています。

祈りと感謝のうちに。

学校長 シスターベルナデチ中川



南スーダンより

食料支援として100万円の支援を決めました。

イエスのカリタス友の会の皆様
いつも南スーダンのために、心温まるご支援をありがとうございます。

こちらは今、雨季が始まり、畑を耕しはじめたところです。この季節になると、みなが作物を作るために家族で畑を耕します。半年間は乾季ですので、土地は砂漠のようになり、食糧確保ができなくなるからです。現在、物価は上昇するばかりで、現金収入がほとんどない村人たちは、今も食料難で苦しんでいます。皆様からの支援のおかげで、定期的にお年寄り、体の不自由な人たちには、優先して、小教区の聖ヴィンセントグループとともに、食料配布ができています。

しかし、新たな問題は、食料が配布されてもそれを料理する燃料が少ないことです。普段は炭、あるいは木や枯葉などを使って料理をしますが、炭の値段は高いので、炭を作るため森に

入ると、反政府軍、あるいは政府のセキュリティーの兵士に追い返されたり、殺されたりして、なかなか燃料確保をすることも難しい状況です。国も、木を調理の燃料にしていることが、砂漠化につながると、木を切ることを禁止しています。

また、国は昨年10月に、「部族を超えて平和を作っていこう」と、公に発表したものの、実際はそう簡単ではなく、地方ではまだまだ、大変な事件が数多いです。

復活の後、聖霊を送ってくださると約束してくださったイエス様が、南スーダンの人々の祈りを聞き、人々が、希望のうちに平和の実現を目指していけますように、続けてお祈り、ご支援をよろしくお願いいたします。感謝をこめて。 2019年 6月

南スーダン共和国

宣教女 シスターマリア・ボスコ下崎



子どもセンターの修了式



フィリピンより



学校前の工事現場

イエスのカリタス友の会の皆様、お元気でいらっしゃいますか。

フィリピン、カリタスドンボスコスクールでは6月10日から新学年度が始まりましたが、去年から生徒数が減少傾向にあります。

その1つの要因として、学校の前を走る道路建設があります。一般道路を先に作って高速道路を建設する予定だった筈なのに、学校を出て右に行く道路がいつまで経っても出来ません。学校を出て右の百メートル先に川があり、先に高速道路用の橋が建てられました。一般道路用の橋は土台まではどうにか建てられましたが、その後一向に工事が進む様子がありません。そのために3キロも迂回しなければなりません。原因はその橋の周りがある高圧電線、突然作られた水道会社の水道橋、一般道路を作る財団の無計画さなどでしょうか。

それなのに、私たちには何の情報も与えられません。被害を被っているのは私たちの学校とその隣の住宅地です。公共の乗り物で学校に来る生徒や先生たちは今までの

数倍もの運賃がかかり、時々乗車拒否さえされることもあるようです。その状態が去年から続いており、更に悪いことに最近では、どの工事も進む様子が全く見られなくなりました。今年中も無理かもという噂もあります。

この状態が続くと学校の運営にかなりの支障をきたします。1日も早くこの状態から脱却して、生徒達や教職員が安全に安心して学校に登校することができるように皆様のお祈りをお願いいたします。



始業のお祈り

下井草教会冬のバザーの準備



井萩聖母幼稚園クリスマスバザーの準備



イエスのカリタス友の会のバザーを、2018年12月には16日(日)にカトリック下井草教会、12月16～18日井萩聖母幼稚園のクリスマス会、2019年は5月12日に下井草教会、5月26日にカトリック碑文谷教会で行いました。バザーの前には、袋詰めや値段付けなど、友の会会員や有志の皆さんが手伝ってくださり、前日から盛り上がりました。2019年は同じ5月のバザーでも12日は肌寒くて、温かい“ぜんざい”が好評でしたが、26日碑文谷教会の日は、北海道佐呂町が39.5度の気温となって東京も猛暑の一日で、酷暑でしたが、少しでも多く支援をお届けできるように頑張りました。

下井草教会春のバザー



碑文谷教会バザー



切手整理

毎月第2月曜日午後 1:30～3:00 まで集まって行っています。



4月8日



5月13日



友の会に届けられた使用済み切手は一枚一枚確認して、周りを切りそろえて、業者に送って換金して頂きます。日本の切手は1kgで800円、外国のものは2000円です。

※ イエスのカリタス友の会のために多くの方々に、献金・バザー物品、使用済み切手や書き損じはがきなどをお届けいただきました。ありがとうございました。

CDを希望された方々や振り込み用紙に寄せられたメッセージ



いつも心洗われる美しい歌声をありがとうございます。今後もずっと聴き続けます。

CD「光の道へ」を2枚希望。これまで4枚のCDで何度も絶望から救っていただきました。ありがとうございます。

恵まれない国そして子どもたちにプレゼントです。

カリタスのシスター方の奉仕大変なことと思います。南スーダンのシスターによろしくお伝えください。

とても温かくて澄んだ歌声に心がいやされます。すてきなCDをありがとうございました。大切に何度も聞かせていただきます。

皆様の歌声のやさしさにいやされます。朝、家族がでかけたあとに聞きながら家事をします。感謝です。

毎年スモールクワイアの歌声にいやされています。シスター方のためにお祈りしています。



イエスのカリタス友の会事務局より

イエスのカリタス友の会に新しいメンバーが
5名増えました。よろしくお願ひ致します



イエスのカリタス友の会は、イエスのカリタス修道女会が行う宣教活動を、
財政的に支援する事を目的とするボランティアグループです。

会員の活動

任意の時期に、任意の金額を友の会に寄付します。

(入会費・年会費はありません)

可能であれば、バザー、使用済み切手の収集・整理、その他の活動に参加、協力します。

入会について

入会ご希望の方は、下記の事項について事務局にお知らせください。

住所・氏名(ふりがな)・電話番号

(電話・FAX・メールのいずれかで結構です)

入会希望を受けて、事務局にて名簿の登録その他事務手続きを済ませた後に、イエスのカリタス友の会の規約をお送りいたします。

個人情報について

入会時に受け付けた個人情報は、友の会事務局にて慎重に管理されます。同会会員に対して

も公開は控えさせていただいておりますので、ご了承ください。

尚、ご寄付・バザーの物品提供・使用済み切手の収集等にご協力いただいた際には、次回発行される「イエスのカリタス友の会だより」にお名前のみ掲載させていただいております。匿名希望の方は、その旨をお知らせください。

友の会会員のために

イエスのカリタス修道女会日本管区本部において、毎月一度友の会会員のために、感謝のミサが捧げられます。ご支援くださる方への感謝と報告を兼ねて、年2回「イエスのカリタス友の会だより」をお送りしています。

イエスのカリタス友の会の趣旨をご理解くださり、賛同してくださる方は下記までご連絡ください。

イエスのカリタス友の会

〒167-0021 東京都杉並区井草 4-20-5

TEL : 03-3396-2171 FAX : 03-3396-2150

e-mail : tomonokai@m-caritas.jp

イエスのカリタス友の会事務局のメンバー



令和元年を迎えて、新しい気持ちで取り組んでまいります。
どうぞよろしくお願いいたします。

事務局からの声

その復活祭も終わり、緑がキラキラとまぶしい日、電話が鳴った。娘からだ。復活祭のごミサに与った双子がどうしてみなと違うの?と聞いたようで、洗礼を受けている人が、ご聖体を頂けるのよと話したところ、私達も受洗したいと言い、娘婿も賛同してくれたそうでK神父様をお願いしようと思うという内容でした。神父様の快いお返事を頂いたようで、しばらくして祝福のうちに洗礼のお恵みを頂きました。幼稚園の年中だったか?

学生時代はソロモンでのボランティア、イタリア、イスラエル巡礼とたくさんの体験をし、今春大学を卒業し、社会人として旅立ちました。歳月はこちらの感じよりはるかに早く流れていると思うこの頃、緑の美しい聖母月になると遠い日の電話の嬉しさを忘れきれない。孫が人々に対して思いやりある人生を送り、いつでも周りの方に感謝してほしいと願いつつ。(T.I.)

長い連休が終わった5月中旬に韓国・済州島巡礼に参加しました。「聖母の夜」のミサに参列と済州教区の教会の皆様と交流をする旅です。「セミ恵みの丘」で夕暮れから始まった野外ミサに3000人の方々と共に与りました。小高い丘にある会場は祭壇を囲むテントが音を立てて揺れるほどの冷たい風も、荘厳で民族性に溢れたミサが進むなか寒さも忘れ、言葉はわからないけれど今ここにいられることに感謝の思いで一杯になりました。ミサの後はロザリオの祈りの行列が長く続き、そして会場を後にしました

翌日、鳥のさえずりを聞きながらロザリオの祈りで歩いたコースを十字架の道行をしながらたどりました。初めての韓国は親しみ深くミサの平和の挨拶で後ろの席の方に「よく来てくださいました」と声を掛けられたこと、日本語で歌われた「マリアさまのこころ」耳に残っています。コマッスンニダ。(ありがとうございます)
(K.K.)

事務局からの声

5月というのに大変な暑さの中で私達の教会のバザーが行われました。スタッフ一同ご来場者の方々の熱中症を大変心配していましたが無事に終わり皆ほっとしているところです。

今年の目標は「共に働いて共に歩もう。世界の恵まれない子ども達の為に。」

年を重ねると、年々ボランティアも体力的にきつくなりますが、同じ目標を持って仲間と汗を流した後の充実感、達成感のご褒美でした。(K.Y.)

「令和」が平和な時代でありますように祈ります。最近、子供が思いもよらぬ悲惨な事件や事故に巻き込まれ犠牲になるニュースが多く報道されていることに心が痛みます。亡くなられた方々の永遠の安らぎをお祈りいたします。

子供たちが大きな夢を抱いて、幸せな人生を歩んでいかれますように。(Y.H.)

今年の5月、管区本部で事務局会議がありその時「明日、ボリビアに帰ります」と言って、一人のシスターが訪ねて下さいました。「この機会に白内障の手術を受けて、良く見えるようになった」と、喜びの報告でした。又、ボリビアの厳しい経済状況や生活環境など、宣教地での困難を語って下さいました。又、ボリビアへは独り旅で、成田からNY13時間、NYからペルー、ペルーからボリビア、ペルーでの待ち時間13時間計43時間の旅。しかも、シスターは82歳とのことでした。

「ボリビアに戻ります」ではなく「ボリビアに帰ります」の一言でした。「友の会」として更なる後方支援に励みたいと切に思った時でした。

友の会員の皆様方から頂戴する御支援が、どんなにか貴重なものであるかを、お伝えさせて頂きました。(Y.M.)

先日、休暇を終えてボリビアへ戻られるイエスのカリタスの高齢のシスターにお会いしました。澆刺に活動を説明してくださり、以前指導を受けたカナダから来日された宣教女と共通したお姿でした。(Y.F.)

海外や日本で働くシスターたちの宣教活動、スモールクワイアによるコンサートのお知らせ、活動報告やなどが、イエスのカリタス修道女会のホームページでもご覧になれます。CDのお申し込み方法なども載せてありますので、ぜひご利用ください。

<http://www.m-caritas.jp>



寄付金受入れ口座

加入者名 イエスのカリタス友の会

郵便振替口座 00160-2-564970

発行 イエスのカリタス友の会

〒167-0021 東京都杉並区井草4-20-5

TEL : 03-3396-2171 FAX : 03-3396-2150

e-mail : tomonokai@m-caritas.jp

代表 山縣久美子

事務局長 片山久美子

